

寺報

平成三十年三月

第七十九号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話〇二一九四一七六一一〇五八

FAX〇二一九四一七六一〇一六九

報恩講スタンプラリー結果報告

昨年の報恩講の折りに、他のお寺の法話も聞いて欲しいという願いから、四ヶ寺を回る「報恩講スタンプラリー」を開催しました。初めての試みであるばかりか、発案から実施まで時間も余りなかったので、参加者がいるだろうか?と言う不安もあつたのですが、やつてみないことにはわからない、と言うことで急遽実施することとなりました。

法要直前の聞法会や寺にお見えになつた方などに声をかけ、茨城東組内の門徒推進員の方にまでお声がけをして、やつと十名ほどが集まりました。



正念寺門徒
橋本 貢様



正念寺門徒
井坂ヨシエ様 井坂哲也様



小澤 光明様



安楽寺門徒
清水 久様



正念寺門徒
坪井 幸夫様



写真は、今回のスタンプラリーに参加して、三ヶ寺以上回られた方々六名です。

寺を巻き込んで、もう少し多くの準備期間も持てるようになります。今度はもう少し多くの人に参加していただきけるようなスタンプラリーにしていきたいと思います。

行くことはほとんど無かつただろうと思います。と言うより、よその寺に行つてはいけないという風に考えていた方もいるかも知れません。

今回のスタンプラリーをきっかけに、是非色々なお話を聞いていただければと思います。

しんらんさま

(第七回)

息子「善鸞」の義絶という悲しい出来事の後も親鸞聖人は執筆活動を続けられました。「善鸞義絶」に関しても諸説ありますが、ここでは略しておきます。善鸞義絶後に書かれたものであろうと推定されるものはいくつもありますが、「正像末和讃」はその一つになります。この「正像末和讃」は、「淨土和讃」「高僧和讃」と併せて『三帖和讃』と呼ばれております。この他にもいくつか書き上げており、八十歳後半にしてこの旺盛な著作は、親鸞聖人が如何に「法然聖人」から伝えられたお法を私たちに伝えようとしたかとの証左でもあります。

しかし親鸞聖人にもやがて死の瞬間は訪れます。弘長二年十一月二十八日（西暦換算・一二六三年一月十六日）、行年九十才（満八十九才）にて、聖人の弟（尋有）が住職をしていた善法坊（院）においてご往生されました。その場所ですが、実は三説ほどあり、当本願寺派では西の万里小路として、そこに善法院を再興（現角坊別院）しております。大谷派では、「親鸞ヶ原」と呼ばれるようになった地に建立されます。また、西洞院松原にある光円寺（大谷派寺院）で亡くなり、その後何らかの理由で「善法院」に遺体を移されたとする説もあります。このようにいくつかの説がありますが、九十年に及ぶ生涯を京都の地で終え



角坊別院



法泉寺跡地

られたことは間違いないことで、そのご遺体を鳥辺野の地で荼毘に付されるのですが、これも場所が二個所あり、本願寺派では鳥辺山南辺（現大谷本廟北側）と言い、大谷派では延仁寺（現今熊野）北側と言っております。雰囲気としては大谷派の言う場所の方があるのですが、七百五十年以上前のことでもありますので、正直などころは判らないと言つたところでしよう。

この荼毘に付した後、ご遺体は「大谷」と呼ばれる場所に納められました。ところで聖人は、ご自身の死後「遺体は川に捨て魚の餌にせよ」という事を言い残しておりました。遺骨に執着するなよと



光円寺

いう事だつたのでしょうか？しかし、聖人の死後私たちはその「遺骨」を守り、その血筋を現在に至るまで大事にしております。それが本願寺の法灯であり、ご門主の血統なのでしょうが、ご門主は常に親鸞聖人を意識し、自らを律していくしかなければならぬ立場であり、法の継承者としても道を逸れることの出来ない立場であり続けることは、大変にストレスのたまることでもあるうかと思います。

親鸞聖人の生涯を七回にわたって追いかけでみました。親鸞聖人については、沢山の方が様々な角度から書かれております。興味を持たれた方は、そのような本を読まれると面白いかと存じます。

参考文献

知られざる親鸞

平凡社新書

親鸞再考

NHKブックス

親鸞

河出書房新社

自照社出版

松尾剛次
松尾剛次

今井雅晴

終

初参り

9月16日にお参り



11月12日にお参り



植田 豊晴君

植田 恵旺君

磯崎

紡久

小林 南々子

倉持 咲那

小林 快成

倉持 芙優



仏具お磨きの様子

春の永代經・夏の歓喜会・秋の報恩講と各法要前には、本堂の仏具を磨いてキレイにしております。その折りに、毎回ご門徒の皆さまの中から十名程度ご協力いただいております。写真は、昨年秋の報恩講前のお磨きの時の光景です。

力を入れて磨いていただいております。そのお陰で、仏具もピカピカと輝いております。

皆さまもご一緒に磨きしませんか？

次回予定

八月二一日

十一月十一日



寺院巡り旅行のお知らせ



一、二、一、一、	参拝寺院	築地本願寺等
観光日程		千葉・勝浦近郊
参加費		五月三十日～三十一日 二万九千円

どうぞよろしくお願ひいたします。

感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させて戴きます。

一、仏具代として

金 壱拾万円

根本 寛治様

一、父の永代経として

金 弐拾万円

園部 君子様

一、駐車場整備代

住 職

お寺でライブ？

七夕の夕べコンサート

正念寺のご門徒に、オペラ歌手の「天下井朱海」様がいらっしゃいます。今回、お願ひして本堂でコンサートを開いて戴く事となりました。左記の通り行いますので、是非沢山の方に、出来ればお子さん連れでも足を運んでいただければと存じます。

日 時 七月七日 午後六時半開演
場 所 正念寺本堂

日 程 平成三十年四月十日（火）
集合場所 正念寺（午前九時集合）
会 場 現在未定
参加費 未定（数百円を予定）
募集定員 四十名
連絡先 正念寺まで

お仏供米奉納

七八八号発行後に御仏供米をご奉納戴きました。

常陸太田市

勝山 芳和 様

ご奉納戴きました御仏供米は大切に使わせて頂きます。



グランドゴルフ正念寺杯参加者募集

二月に行う予定だった第一回は、コースが雪で凍つてしまつており、中止せざるを得ませんでした。初っぱなから出鼻を挫かれた感はありますが、懲りずに延期をして再スタートを切りたいと思います。

場所は、正念寺近くのコースを考えておりますが、まだ決定ではありません。日時等は、左記の通りです。

「とても大きな蝋燭と、とても大きなお火鉢で、明るい、明るい、暖かい。大人はしつとりお話で、子供は騒いじや叱られる。だけど明るく賑やかで、友だちやみんな寄つていて、何かしないじやいられない。」

こんな部分があり、大人から子供までみんな一緒にお寺に参り、子供はお話は解らなくとも一緒にいて、普段と違う大きな蝋燭の明かりが、堂内を照らしている。そんな普段と違うことにワクワクしている子供の気持ち（みすゞさんの実体験でしよう）が良く表れていると思います。

浄土真宗の教えが染み込んでいる土地柄を「土徳」という呼び方をします。このみすゞさんの生まれた仙崎もそんな土地柄だったのでしようね。

住職雑感

昨年の永代経法要で、「一龍斎春水」さんに十年に渡つての口演「中村久子伝」が完結しました。そして今年は、金子みすゞさんの話を聞いていただきました。

この金子みすゞさんは、浄土真宗の教えが染み込んだ、山口県長門市仙崎で生まれましたが、その中に「報恩講」という詩があります。その詩の中に、